

念は必ず

行じてやい。

二年生は来週から修学旅行。ワクワクしている人がたくさん！
修学旅行や職場体験等、学校「外」で活動するときにもいつも言っているのは、「規則」と「規律」です。

「規則」とは、いわゆる「ルール」です。
修学旅行では、「お金はいくらまで」、「スマホ等の不要物は持ってきてはいけません」…等々、「これらは守らないといけない約束事なので規則です。学校で言えば校則であり、社会で言えば法律や条令がこれにあたります。

当然、「規則」を破ると、誰かに見守られたり、行動が制限されたり、と自由が制限されて窮屈(きゆうくつ)になるものです。

だから、「規則(ルール)を守る」というのは、自分の自由を守る、ということにつながります。

それに対して「規律」とは、簡単に言うと「マナー」です。

一般社会の人は、校則や旅行のきまりなど、西南中のルールを知ることではできませんが、逆に、マナー面では学校も社会も、大切にしていくことはほぼほぼ同じです。

そう考えると、一般の人と共通点がたくさんある「マナー」を守らないときの方が、周りの人をより大きく、「不愉快な気持ち」にさせてしまうことになります。(「ルール違反」は西南中に関わる全員を不愉快にさせてしまうことになりません。)

こればかりは、一人一人の、周りの人のことを思う気持ち、気配りの具合で大きく変わってきます。より大事なのは、「マナー」。「マナー」にこだわって三日間過して欲しいと願います。

マナーを守れない人の共通点は、

「自分の心の中に線を引く」ということができない。

「ここから先は、周りの人に迷惑をかける」というのを自分で線引きできない人が多いのです。

世の中には、見えるように線は引かれていないけど、越えてはいけない線(モラル・マナー)があります。「公共の場でのしゃべり声の大きさ、立ち居振る舞い」「道路の歩き方」「バス・電車の乗り方」「話をされる方への聴き方」「お風呂の入り方」…、幼い子どもであれば失敗し、学んでいくので許されますが、もう皆さんは中学生。幼い子どもと同じ…、では社会では通用しません。周りの人は「中学生は自分で線を引けるもの」と思われているからです。

一人一人が自律(節度)を持って生活できる(して、素晴らしい修学旅行にしてください。

「ここ」で突然、話題は変わりますが、皆さん、

「行ってらっしゃい」とは、どういう意味か、「存じですか？」

「行ってらっしゃい」は、「行って、帰ってらっしゃい」、「また行ってきます」は、「行って、帰ってきます」という意味。

昔、戦争を経験された方々は、いつ戻るのか、そもそも無事に帰ってこれるのか分からない大勢の人たちを、そう願いを込めて見送ったのかもしれない。

普段あまり考えることのない、「一つ一つの言葉の意味。でも、何気ない一言にもちゃんと意味が込められて存在するのです。

今の時代がからこそ、大切にしたいこと。

「行ってらっしゃい」、「行ってきます」が毎日言えることは、本当はとても幸せなことなのです。

ちなみに、「行ってらっしゃい」、「行ってきます」っていうのは、英語やフランス語にはないそうです。ちょっとした言葉の中に、日本人の「相手を想う気持ち」が込められているんですね。

どんなにケンカして腹が立った日でも、「どうか、無事に帰ってきてね。ここがあなたの帰ってくる場所ですよ。」と言える家族や仲間っていいですよ。

二年生、「行ってらっしゃいー!」

私も行くのび

行ってきますすい